

障害者計画シンポジウムの開催結果（概要）

【概要】文京区障害者計画の改定(平成24年度～26年度)に当たり、障害福祉の現状と課題や方向性等について、障害のある人とない人がともに考える機会とするため、シンポジウムを開催した。

【日時】平成23年10月28日（金） 午後1時30分～午後4時

【場所】文京シビックセンター 4階シルバーホール

【内容】第一部 講演会「地域生活支援と自己決定」 高山 直樹 東洋大学社会学部教授

第二部 パネルディスカッション <反映させたい 私の意見>

○コーディネーター

○パネリスト6名（肢体、視覚、聴覚、知的、精神の各障害当事者、児童保護者）

○助言者4名

【参加人数】約100名

【パネルディスカッション時の主な意見】

※ コーディネーター・助言者の意見を含む。

聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・耳による情報は得ることができないので、手話は聴覚障害者にとって重要。 ・震災時に駅などで、スピーカーによる情報を得ることができなかった。 ・日常生活で聴覚障害者に接する機会がなければ、理解は進まない。接する機会を増やし、バリアフリーを推進してほしい。 ・高齢になれば、健常者でも様々な器官が低下し日常生活に支障が出る。障害があるからといって特別扱いするのではなく、自分の問題として考えてほしい。
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷物が音声や点字に訳されるまでに時間がかかる。点字が公的書類の提出物として認められていない。 ・駅のホームは視覚障害者にとって非常に危険。自転車のマナーの悪さも問題。 ・ガイドヘルパーが不足気味で、楽しみのための外出など控えがちである。 ・服装の確認ができる公的サービスがあると良い。 ・災害時の視覚障害者対応を考えてほしい。 ・義務教育の中に点字・手話の時間があるとよい。
肢体障害	<ul style="list-style-type: none"> ・介助者（ヘルパー）が不足している。 ・通勤や通所で、介助が利用できる制度が必要。 ・文京区は都心で坂も多いので、障害を持っている人が住める住宅の整備が必要。 ・障害者施策の検討について、障害者自身を参画させてほしい。

知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的な不安がある。 ・ 就職をしたい。 ・ 一般の人と接することができるサークルなどがあると良い。 ・ 地域のつながりがもっと良くなればいい。 ・ 知的障害者が意見を言える環境を確保する必要がある。
精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬の管理が大切であり、薬がないと眠れない。災害時が不安である。 ・ 保健師は精神障害者にとって重要な存在。経験豊富な保健師が必要。 ・ 精神障害について、行政が理解の促進をしてほしい。 ・ 文京区では精神障害の部署が他の障害と違うので、利用者の視点に立った区役所の組織である必要がある。 ・ 医療と福祉の連携が重要である。
児童保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区立小学校が近くにあるが、特別支援学級がないので、兄弟と同じように通うことができなかった。 ・ 大人になってから地域で暮らすためにも、幼児期から障害のある子もない子どもともに育つ環境が必要。 ・ 障害福祉の中で障害児の政策を考えるのではなく、子育て支援の中で考えてほしい。
参加者 (アンケートから)	<p>「シンポジウムについて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的を開催してほしい。 ・ あらゆる障害のことを理解できて良かった。当事者の声を聞くことができたのはとても良い機会だった。より多くの方々、一般の方々が参加できると良いと思う。 ・ 障害のある方の生の声が聞けて参考になった。今後は、もっと濃い内容の話聞いてみたいと思った。 <p>「障害者計画、区の施策について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の意見を入れてほしい。 ・ 地域での障害者支援と理解の輪の広がりをつくるには、官民の協働とネットワークの構築が必要。